

日銀旭川事務所長のみた 旭川シーン SCENE 13

金融機関の

貸出状況(後編)

六年中に貸出約定平均金利は大きく低下しましたが、その時期に前後して短観の借入金利水準判断も低下超幅を大きく拡大させています。

短観では、このほか、企業の資金繰りや企業から見た金融機関の貸出態度についても判断をいただいています。

移する中、そのレベルも全国短観と比べDIの水準が高く、全国との比較でも当地は金融機関の貸出姿勢が緩いと受け止められていたようです。これは、前回ご紹介した当地の貸出約定平均金利が

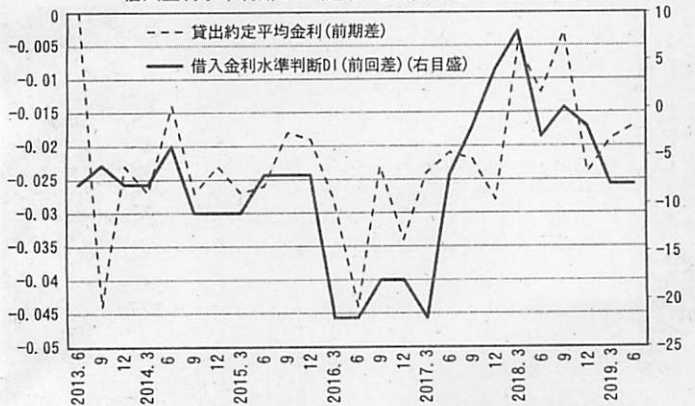
低下し、全国との差異が急速に縮まっていることや、長期の貸出金利と短期の貸出金利の差が、国内銀行のデータ以上にフラット化するまで長期の貸出金利の低下圧力が強いことも整合的です。

金利競争が過熱すれば、お客様の様々なサービスニーズに寄り添う非価格競争も激化します。金融機関との取引は長い継続的なお付き合いとなりがちです。借り手の皆様も、目先の金利だけでなく、困ったところに逸早く気づき、親身に助けてくれる金融機関と取引することが肝要で、今はその相手と巡り合う絶好の機会と言えるかもしれません。

旭川における金融機関の貸出について、今回は借り手側からみた状況を確認します。短観は旭川市内企業だけのサンプルでは集計していません。道北地域を括りとしたデータで、異次元緩和が始まった二〇一三年以降の関係をDIの推移をみてみました。道北地域の借入金利水準判断DI(上昇「低下」の推移は、旭川市内の貸出約定平均金利(総合、ストック)の変化(前期差ともほぼ符合します。二〇一

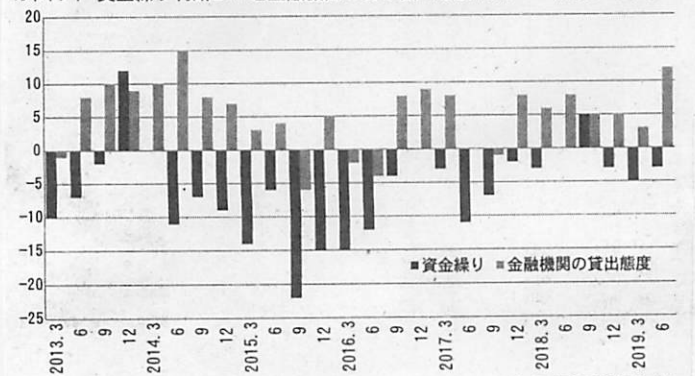
六年中に貸出約定平均金利は大きく低下しましたが、その時期に前後して短観の借入金利水準判断も低下超幅を大きく拡大させています。

%ポイント 借入金利水準判断DI(道北)と貸出約定平均金利(旭川) %ポイント



資料: 日本銀行旭川事務所

%ポイント 資金繰り判断DIと金融機関の貸し出し態度判断DI(道北-全国)



資料: 日本銀行旭川事務所

【中本浩信(なかもとひろのぶ)】一九六三年東京都生まれ。東京大学法学部卒。支店は鹿児島、神戸に勤務。二〇一八年八月から旭川事務所長。趣味は絵画鑑賞。

「Everything(邦題「博士と彼女のセオリー」二〇一四年)では、ALS(毎月第四週に掲載します)に侵されつつも物理学のフロンティアを開拓する博士と、余命二年といわれた博士と結婚して、博士を懸命に支えた妻の姿が描かれています。絶望的な人生の苦境で、支え手の存在がどれほど大事か、改めて教えられる映画でした。」



当地の文学者 三浦綾子さんの支え手はご主人の光世さんだった